素　案

かつしか
アート・カルチャー基本方針

Katsushika Basic Policy For Arts and Culture

葛飾区　令和７年（２０２５年）３月

目　次

第1章　基本方針策定の趣旨 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第2章　葛飾区の文化・芸術に係る現状と課題 ・・・・・・・・・4

1. 文化・芸術を取り巻く本区の現状と社会状況について ・・・・・4
2. 区民意識調査の分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
3. 区の文化・芸術振興施策における課題 ・・・・・・・・・・・・・・10

第3章　基本方針策定に向けた基本理念 ・・・・・・・・・・・・・・11

1. 基本となる方向性 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
2. 取組の柱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

第4章　基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

1. 誰もが身近に感じ、体験できる機会の創出 ・・・・・・・・・・・12
2. 多様な主体と結びつく人づくり ・・・・・・・・・・・・・・・・・13
3. 文化・芸術の振興拠点と情報発信の強化 ・・・・・・・・・・・・・14
4. 地域経済の発展における新たな魅力づくり ・・・・・・・・・・・15
5. 文化・芸術の推進体制の強化・充実 ・・・・・・・・・・・・・・・16

第１章　基本方針策定の趣旨

平成 19 年 2 月 19 日の閣議決定された文化芸術の振興に関する基本的な方針では、「文化は、最も広くとらえると、人間が自然とのかかわりや風土の中で生まれ育ち、身に付けていく立ち居振る舞いや衣食住をはじめとする暮らし、生活様式、価値観など、およそ人間と人間の生活にかかわることのすべてのことを意味しています。また、人間が理想を実現していくための精神活動及びその成果であるという側面があります。」としています。

また、「文化芸術基本法（第８条から第14条）」では文学や音楽、美術、写真などの芸術のほか、映画や、漫画などのメディア芸術、さらには、講談や落語などの伝統芸能 、茶道や書道などの生活にかかる文化、さらには将棋や囲碁などの国民的娯楽、有形及び無形の文化財、地域固有の伝統芸能など、幅広い範囲を「文化・芸術」と定めています。

同法の目的は文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を範囲に取り込むとともに、それにより生み出される様々な価値を文化芸術の継承，発展及び創造に活用することとなっています。

また、都は「東京都文化戦略2030」を策定し、4つの戦略として(1)誰もが芸術文化に身近に触れられる環境を整え人々の幸せに寄与する。(2)芸術文化の力で、人々に喜び、感動、新たな価値の発見をもたらす。(3)国内外のアートシーンの中心として、世界を魅了する創造性を生み出す。(4)アーティストや芸術文化団体等が継続的に活動できる仕組みをつくる。を掲げています。

それらを背景に踏まえると、本区では江戸時代から継承してきた 伝統工芸や菖蒲園 、柴又帝釈天を中心とした周囲の旧家や寺社、用水路跡を含めた葛飾柴又の文化的景観 といった歴史的文化 に加え、全国的に馴染み深い区ゆかりの映画や漫画・アニメ 、キャラクターといったサブカルチャーまで 、『葛飾区ならでは』の様々な文化・芸術の資源が根付いています。一方で、活動という面では、直接的な創作・表現活動や芸術鑑賞等の機会を除き、多くの人が趣味や好きなことに対しては、文化・芸術との意識は持たずに活動しているのが実情です。この基本方針は文化芸術基本法で定められた幅広い範囲の「文化・芸術」について浸透させ、誰もが日常の中で当たり前にしていることも実は文化・芸術に紐づく活動であると認識していただく役割を担っています。

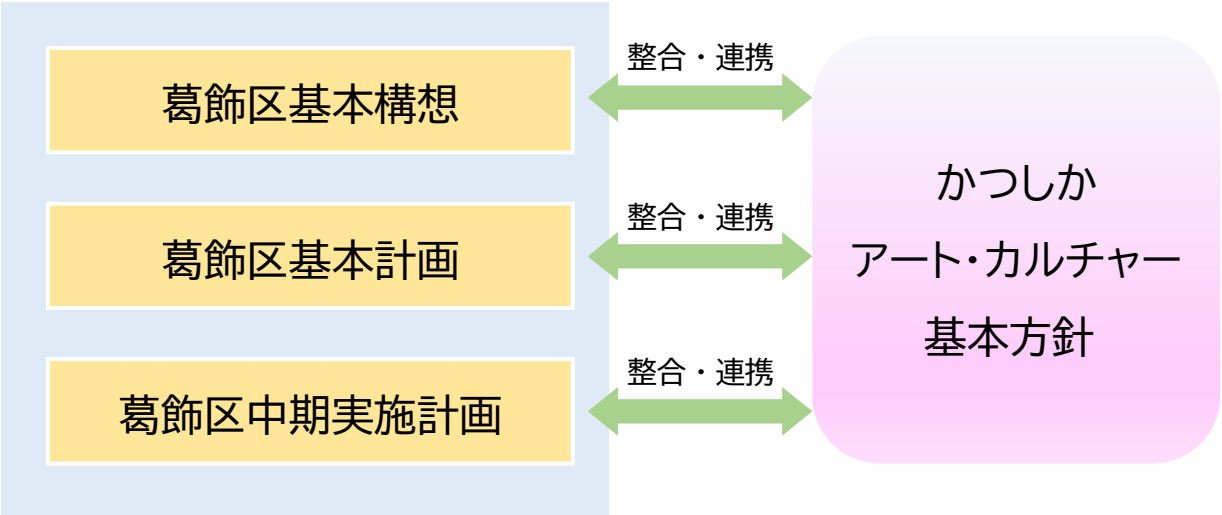
そして、本区の文化・芸術振興の施策としては、令和３年３月に策定した葛飾区基本構想（以下、「基本構想」という）の中で、基本的な方向性の一つに「葛飾らしい文化や産業が輝く、笑顔とにぎわいあふれるまち」を掲げ、葛飾らしさのある豊かな地域文化や、ふるさと葛飾を愛する心・誇りを育み、誰もが文化・芸術に触れつつ、心豊かに暮らせるまちづくりを目指すとしています。

また、令和３年８月に策定した葛飾区基本計画（以下、「基本計画」という）では14の「葛飾・夢と誇りのプロジェクト」を掲げ、基本構想で示した目指すべきまちの姿を実現するため、政策別の計画をまとめました。その14のプロジェクトの中の一つを「観光・文化のまち葛飾」推進プロジェクトとし、まちの魅力を磨き上げ、発信し、にぎわいのあるまちづくりを進めていくこととしています。

本区のこれからは、少子高齢社会の到来とともに、人口減少や、そこに起因する地域経済の停滞など様々な課題が想定されます。基本構想で掲げた目指すべきまちの姿や、基本計画における14の「葛飾・夢と誇りのプロジェクト」を推進し、将来迎えるべき社会の姿に対して、今から備えておく姿勢を打ち出すことが重要であると考え、「文化・芸術」という観点からすでにあるものをどう発展的に生かし、今後どのように取り組むのかを基本方針として定めるものとします。

なお、「かつしかアート・カルチャー基本方針」という名称については、「文化・芸術」という言葉が持つ敷居が高いイメージを払拭する願いを込めて定めました。これからの本区の文化・芸術が、日常生活の中で当たり前に行動していることのような、一層身近な活動となることで、心の豊かさを育む要素となればと考えています。

かつしかアート・カルチャー基本方針の位置づけ



第２章　葛飾区の文化・芸術に係る現状と課題

1　文化・芸術を取り巻く本区の現状と社会状況について

現在、国全体では人口減少とともに、少子高齢化が進む中、本区における人口は増加傾向にあり、生産年齢人口の増加に伴い、高齢化率はわずかながら減少している傾向にあります。しかしながら、少子化については歯止めがかかっておらず、本区では子どもを産み、育てやすい環境を整備するため、子育て支援の拠点施設となる子ども未来プラザの整備のほか、都心部では先駆的取組となる学校給食の無償化や、出産応援給付金など独自の施策を打ち出しています。

また、地域経済の担い手である区内中小企業においては、物価高騰とともに人手不足が顕著になり、労働力として外国人を求めている状況です。このため、本区の外国人人口はコロナ禍以後年々増加し、本区人口全体の約６％を占めるまでになっています。

さらに、社会全体を通した情報通信技術の急速な発展と普及により、様々な分野でデジタル化が進展し、区民の生活様式にも変化が見え始めています。

このような状況の中、国による文化・芸術に関する法整備なども進められ、区行政においても、多様な主体が文化・芸術によって生み出す様々な価値を尊重し合い、その継承及び発展、創造に活用するため、観光、まちづくり、福祉、教育、産業、国際交流等の多くの分野と連携した取組が求められています。

2 区民意識調査の分析

※葛飾区　区民モニター　アンケート調査（2023年11月）より

1 文化・芸術活動に対する意識及び参加の有無と手段

「文化芸術活動を鑑賞、行うことの大切さ」について、「非常に大切だと思う」「ある程度大切だと思う」との　回答は 約9割である一方、鑑賞や活動の場は4割が「自宅」となっています。

また、文化芸術活動を行った場所については、区外の公共施設が最も多く、かつしかシンフォニーヒルズやかめありリリオホールは2割未満にとどまっています。

2 活用の頻度

「この1年間で文化芸術活動を行ったか」については、7割が「特にしていない」と答えています。

また、「行った」と回答した人の頻度は「年に数回」程度にとどまっています。

3 文化的な環境を充実させるために重要なこと

「身近な場所で気軽に文化・芸術に触れられる機会の充実」が64.9%で最も高く、次いで「子ども、高齢者、障害者、外国人など、誰もが文化・芸術活動に親しめる機会の充実」が41.2%、「著名なアーティスト等、一流の文化芸術に触れられる機会の企画・開催」が39.4%となっています。

4 国際文化交流に期待すること

国際的な文化交流に期待することについては、「相互理解が進むほか、互いに良い刺激を受けることができる」が54.3%で最も高く、次いで「国際化が進み、国際的に開かれた豊かな文化を持つ区に発展する」が45.2%、「多言語対応のほか、日本語で会話できるようになれば、外国人との共生はよりスムーズに受け入れることができる」が33.8%となっています。

年代別にみると、「相互理解が進むほか、互いに良い刺激を受けることができる」では40歳代を除く全ての年代で５割以上となっています。

「その他」の内容としては、「日本のルールやマナーをよく知り理解する機会の提供」、「住んでいる人が困らないように、スーパーなどでの英語表記などのサポート」などもあります。

※「葛飾区文化芸術に関する基本方針策定のためのアンケート調査」（2024年9月）より

＜誰もが身近に感じる環境づくり＞

1 各世代における文化芸術に触れる機会について

身近に文化芸術に触れる機会は成人期、高齢期となるほど増えていることがわかりますが、乳幼児期では34%、青少年期では29%が「やや足りない」ないし「足りない」と感じています。

理由を見ると、乳幼児期は乳幼児向けのイベントが少ない、乳幼児を連れて行ける美術館がない、といった意見等がありました。青少年期では学業等で忙しく参加の機会が確保できない、金銭面で難しい、といった意見等がありました。

2 高齢者や障害者が文化・芸術に触れる機会を創出するために重要だと思うことについて

高齢者及び障害者いずれも文化芸術に触れることのできる環境の整備が求められています。

また、区の新たな魅力を生み出すものとして障害のある方が自由に表現できる美術展（アールブリュット展）への期待も15%あります。

3 文化芸術活動やイベントを行う際の課題

活動を行う際の課題としては「場所の確保」が最も多く27%、次いで「人手の確保」が24%となっています。

4 今後活動を発展させていくための課題

今後活動を発展させるための課題が「ある」と答えたのは半分強（54%）で、その内容としては多くが活動場所や資金や人材・後継者の確保となっています。

＜多様な主体との結びつき＞

5　後継者の育成

各団体の後継者の育成状況については、「あまり育っていない」ないし「育っていない」が合わせて42%あり、課題となっていることがわかります。また、それらの理由の自由回答の中にも「中高生の継続が難しい」「若者が参加しない」といった意見が多く、若手の育成と支援が必要とされていることがわかります。

6　芸術作品の活用による葛飾区の新たな魅力を創出するための取組

区の新たな魅力を創出する取組としては「デザインと産業分野ものづくりとの融合」が最も多く34%となっています。しかし、他分野の人材活用を検討したことがある団体は3割に満たないことがわかります。また、検討を考えた分野でも大学との連携が最も多く23%、続いて福祉団体との連携が20%となっている一方で、町工場との連携は9%、伝統工芸との連携は13%と少ないです。また、デザインや情報発信の専門分野での力を活用したいと考えている団体が24%あり、団体の活動の幅を広げるために専門分野の力の活用を考えている団体が約4分の１いることがわかります。

＜活動拠点と情報発信の強化＞

7　文化・芸術活動を行う際の課題について

活動団体の約3割が活動場所の確保を課題としていることがわかります。さらに場所確保の課題の多くは「予約が取れない」が最も多く43%となっていることがわかります。また、かつしかシンフォニーヒルズ、かめありリリオホールを「利用したことがない」団体が、「そもそも知らない」も含めて25%もいることがわかります。その理由としては3割が「観たいコンサートや舞台、展覧会がなく訪問する目的がない」ですが、「利用したいが空きがない」（5%）と「利用方法がわからない」（5%）を合わせると１割あり、場所確保の課題としての予約の取りづらさへの工夫を考える必要があります。

8　施設の機能や利用手続きについて

施設にあってほしい機能としては「Wi-Fi」が最も多く40%となっています。また、情報収集の媒体としては、「広報かつしか」が最も多く34%、続いて「ミル」が15%と続きますが、「SNS」と「インターネット動画配信」を合わせると23%と、少なくないことがわかります。

また、施設利用にあたり申し込みなどの手続きを便利にするために望むこととして、自由回答の中からインターネットによる予約・決済システムを要望する意見が多かったことからも、デジタル化に応じたサービスの変革が求められていると言えます。

9　情報誌「ミル」への関心や改善点について

情報誌「ミル」について、「ほとんど関心がない」、「全く関心がない」、「知らない」という意見が4分の１を占めています。その主な理由としては、改善案の自由回答の中に、音楽以外の情報がわかりにくい、登録団体の活動などをもっと取材してほしいといった意見が多かったことから、まだまだ団体の活動にとっての必要な情報が身近に届いていないことがわかります。読者に自然に伝わっていくようなコンテンツや配架場所についてよりいっそう工夫を講じることが要請されていると言えます。

＜地域経済発展との結びつき＞

10　文化芸術を生かした葛飾区の新たな魅力創造

区の新たな魅力を創出する取組としては「デザインと産業分野ものづくりとの融合」が最も多く34%となっており、魅力を生み出すために必要なこととして「区内中小企業の技術力とデザイン・アートの融合」と「産業分野と連携し、デザイン・アート賞等イベントの開催」を合わせると21%と他の選択肢よりも多くなっています。

また「文化財など歴史的な観光資源を生かした観光事業」が11%と一定数あり、下町情緒あふれる街並みや下町文化など文化資源をもっと広めるべきといった意見が自由意見でも多く見られました。

このほか「葛飾ならではの男はつらいよやこち亀など映画や漫画を生かしたまちづくり」が10%と一定数ありました。都市のイメージについても「下町の雰囲気、街並み、人情を生かした文化・芸術であって欲しい」といった意見や、映画や漫画のキャラクターをキーワードにした意見も多くみられました。

11　葛飾区の魅力発信

文化芸術を生かした葛飾区の新たな魅力を生み出すために必要なものとして、最も多かったのが「誰もが交流や創作活動のために気軽に集うことができる場所の確保」（17%）と「区内各地での音楽イベントやアートイベントの実施」（17%）であり、身近で気軽に使える場所の確保や身近なイベントの実施等、「身近さ」が重要視されていると言えます。

また、他分野との連携企画で参加したいと思う事業としても、自由回答の中にイベント実施による地域や商店街との連携を要望する意見が多かったことから、地域とのつながりを重要視していることがわかります。

3　区の文化・芸術振興施策における課題

住民意識調査から得られた課題

1　文化・芸術に係る体験や学習機会の充実

① 幼少期から青年期にかけた教育の場における体験機会の充実
② 世代や障害の有無など個々の状況による体験格差
③ 国際交流や多文化理解を深める体験や学習機会の充実
④ 身近で気軽に参加・鑑賞できる機会の充実

2　人づくりと人材交流

① 活動団体の担い手や後継者の育成支援
② 分野を超えたクリエイターの交流
③ 活動の成果発表やセミナーなどの場の創出

3　活動環境の整備・充実

① 交流や創作活動、練習、発表に誰もが参加しやすい場の提供
② 予約システムのデジタル化など利用しやすいシステムの構築
③ 情報誌ミルの活用等による活動団体やアーティストの取組の情報発信

4　文化資源の活用

① 産業分野におけるアートやデザイン等を活用したものづくり
② 郷土の歴史や文化資源の認知度向上と活用の場の創出
③ 本区ゆかりのキャラクターを資源として生かす機会の創出

5　取組の推進体制

① 様々な団体・組織とのネットワークづくり
② 窓口の一本化による文化・芸術活動の推進
③ 観光や産業とも一体となった庁内横断的な連携

第３章　基本方針策定に向けた基本理念

1　基本となる方向性（目指すべき未来像）

人と人のつながりが新たな魅力や活力をつくり続けるまち　かつしか（※再検討）

2　取組の柱

1．誰もが身近に感じ、体験できる機会の創出
2．多様な主体と結びつく人づくり
3．文化・芸術の振興拠点と情報発信の強化
4．地域経済の発展における新たな魅力づくり
5．文化・芸術の推進体制の強化・充実

目指すべき未来像

人と人のつながりが新たな魅力や活力をつくり続けるまち
かつしか（※再検討）

目 標

- 人と人のつながり
- 新たな魅力や活力をつくる

取組の柱

- 1．誰もが身近に感じ、体験できる機会の創出
- 2．多様な主体と結びつく人づくり
- 3．文化・芸術の振興拠点と情報発信の強化
- 4．地域経済の発展における新たな魅力づくり
- 5．文化・芸術の推進体制の強化・充実

→ 各取組の展開

第４章　基本方針

取組の柱１　誰もが身近に感じ、体験できる機会の創出

身体機能・能力の違いや年齢、性別、国籍に関わらず、誰もが公平に文化・芸術に触れられるような体験機会の創出を推進し、街なかでふとしたときに音楽を耳にする、アートを目にする、歴史を感じるまちづくりの取組を推進します。

また、子供が文化・芸術活動を始めるきっかけづくりや、興味・関心を深める機会を充実することで、創造性や思考力、表現力を育むとともに、文化・芸術を通して誰もが互いの個性、文化、習慣等の違いを認め、相互理解を深める機会を創出します。

取組の事例

1. ユニバーサルデザインに配慮した取組
2. 多様な文化や価値観を尊重し相互理解を深める取組
3. 幼少期からの体験機会の創出
4. 各地域での体験機会の充実

取組の柱２　多様な主体と結びつく人づくり

分野や世代を超えた様々な人が出逢い、交流する場の活性化を促し、イベント時の協力関係や互いに刺激し合える関係づくりを創出することで、次世代のアーティストや若手団体の育成、支援を強化します。

また、区内に住む若手アーティストが、デザインや情報発信分野でのクリエイターとして活躍できるよう、様々な団体とのネットワークを作ります。

取組の事例

1. 協力関係を生み出す人材交流の促進
2. 次世代アーティストや若手団体の育成、支援
3. 専門分野の力の活用

取組の柱３　文化・芸術の振興拠点と情報発信の強化

時代に即した文化・芸術の振興拠点として区民の創作活動や練習に適した文化施設となるよう、予約や決済等のデジタルサービスの充実など、利便性の向上と環境整備を推進します。

また、情報誌「ミル」を活用し、区内で活動する団体やアーティストの取組等を掲載するなど、地域密着型の魅力発信を支援するとともに、ＳＮＳや動画配信等を活用することで、需要のある情報をその人に合わせた方法で取得しやすくなるよう、情報発信の強化に努めます。

取組の事例

1　社会状況の変化に応じたサービスの変革

2　伝えるから伝わる情報発信へ

3　各種活動における練習スペース等の確保

4　文化・芸術の拠点としての再構築

取組の柱４　地域経済の発展における新たな魅力づくり

海外でも知名度の高い本区ゆかりのキャラクターや、葛飾柴又の文化的景観などの歴史や文化、花菖蒲等の多彩な観光資源を発掘し、磨き上げ、その魅力を効果的に発信するとともに、ものづくり産業とアートを掛け合わせることで、デザイン性を付加価値とした新たな魅力を創出します。

また、区内の中小企業などと連携し、その企業が持つ技術力を生かしたアートイベントや、デザインを用いたまちづくりを支援します。

さらに、伝統や文化資源の価値を保護・継承し、その多角的な活用を図り新たな魅力を生み出すことで文化・芸術の振興を促進します。

取組の事例

1　ものづくりとアートの融合

2　区内中小企業における技術力をデザインやアートに生かすための支援

3　漫画などのキャラクターを生かしたまちづくり

4　歴史的な文化資源や下町情緒を生かした観光資源の再発見

取組の柱５　文化・芸術の推進体制の強化・充実

文化・芸術活動をする個人・団体のほか、子育てや福祉、国際交流、まちづくり、大学、商店街、企業など、様々な団体・組織同士がネットワークを構築し、連携した活動が展開できるよう、つながりを強化します。

また、文化・芸術活動を効果的・効率的に推進していくため、教育・福祉のみならず観光や産業などと連携した区役所内の横断的な取組を図るとともに、文化・芸術に関する窓口の整理・集約など、わかりやすい組織体制づくりに努めます。

取組の事例

1　様々な団体・組織との連携強化

2　区窓口の整理・集約

3　横断的取組

かつしかアート・カルチャー基本方針

令和7年（２０２５年）３月

編集・発行　　葛飾区地域振興部文化国際課
業務受託　　株式会社アネトス地域計画
〒１２４-００１２　　東京都葛飾区立石６丁目３３番１号
かつしかシンフォニーヒルズ 別館２階
電　話　　０３－５６７０－２２５９
ＦＡＸ　　０３－５６７０－２２６５
E-mail　　050450@city.katsushika.lg.jp
葛飾区ホームページ　　https://www.city.katsushika.lg.jp/

葛飾区
Katsushika City

かつしかアート・カルチャー基本方針
令和７年（２０２５年）３月